国土を整え、全力で備える
国土交通省
中国地方整備局

資料3

グループワークの実施

令和元年10月8日

国土交通省 中国地方整備局
倉吉河川国道事務所

タイムスケジュール

内容	所要時間	経過時間
（1）趣旨説明・グループワークの進め方	5分	10:25-10:30
（2）ワールドカフェ方式による意見交換 【テーマ】 • 水害時に対応していること（現状） • 関係機関と情報共有・連携したいこと（要望）について		
・第1ラウンド	20分	10:30-10:50
・第2ラウンド	15分	10:50-11:05
・第3ラウンド	15分	11:05-11:20

趣旨説明

■グループワークの目的

天神川水害タイムラインの関係機関で連携できることを把握すること。

そのために…

- 関係機関（本日参加いただいたご担当者）が「水害時に実施している行動内容」を共有する※。
- 水害時の対応で「困っていること」について情報を共有する。
  困っていることに対して、他の機関が、現在、水害時に実施している行動内容の中から「連携したいこと（その情報が欲しい など）」をみつける。

本日の意見交換のテーマ

※ご参加頂いたご担当者が実施している内容（わかる内容）について教えていただく

本日の各関係機関のご担当者様が「水害時に対応していること（現状）」と「水害時の対応で困っていること」の二つの視点から意見交換を行う。

■グループワーク後

- 組織内の他部署の行動内容については、本日は発言できないこともあると想定されるため、グループワークの結果を踏まえたタイムライン素案の修正案と合わせて、次回検討会までの事前確認等でご連絡させていただく。

各ラウンドの目的

■第1ラウンド

①各テーブルで、**「関係機関（本日参加いただいたご担当者）が水害時に実施している行動内容（現状）」と「水害時の対応などで困っていること」**を共有する

②①のうち**“共感できる「困っていること」や「他の機関が水害時に実施している行動内容に対して連携したいこと」”**をみつける

■第2ラウンド

①**第1ラウンドのテーブルに残った方は第1ラウンドで出た情報を紹介**する

②第1ラウンドと同様に、各テーブルで、「関係機関（本日参加いただいたご担当者）が水害時に実施している行動内容（現状）」と「水害時の対応などで困っていること」を共有する

③②のうち“共感できる「困っていること」や「他の機関が水害時に実施している行動内容に対して連携したいこと」”をみつける

④**“共感できる「困っていること」や「他の機関が水害時に実施している行動内容に対して連携したいこと」”を第1ラウンドのテーブルへ持ち帰る準備**をする

■第3ラウンド

□第1ラウンドのテーブルに戻り、**各テーブルから持ち帰った“共感できる「困っていること」や「他の機関が水害時に実施している行動内容に対して連携したいこと」”を共有**する

グループワークの方法

＜ワールドカフェ方式＞

□会議室ではなく、「カフェ」のようなリラックスした雰囲気で、テーマに集中した対話を行う。

□テーブルチェンジをして小グループでの対話を重ねる。

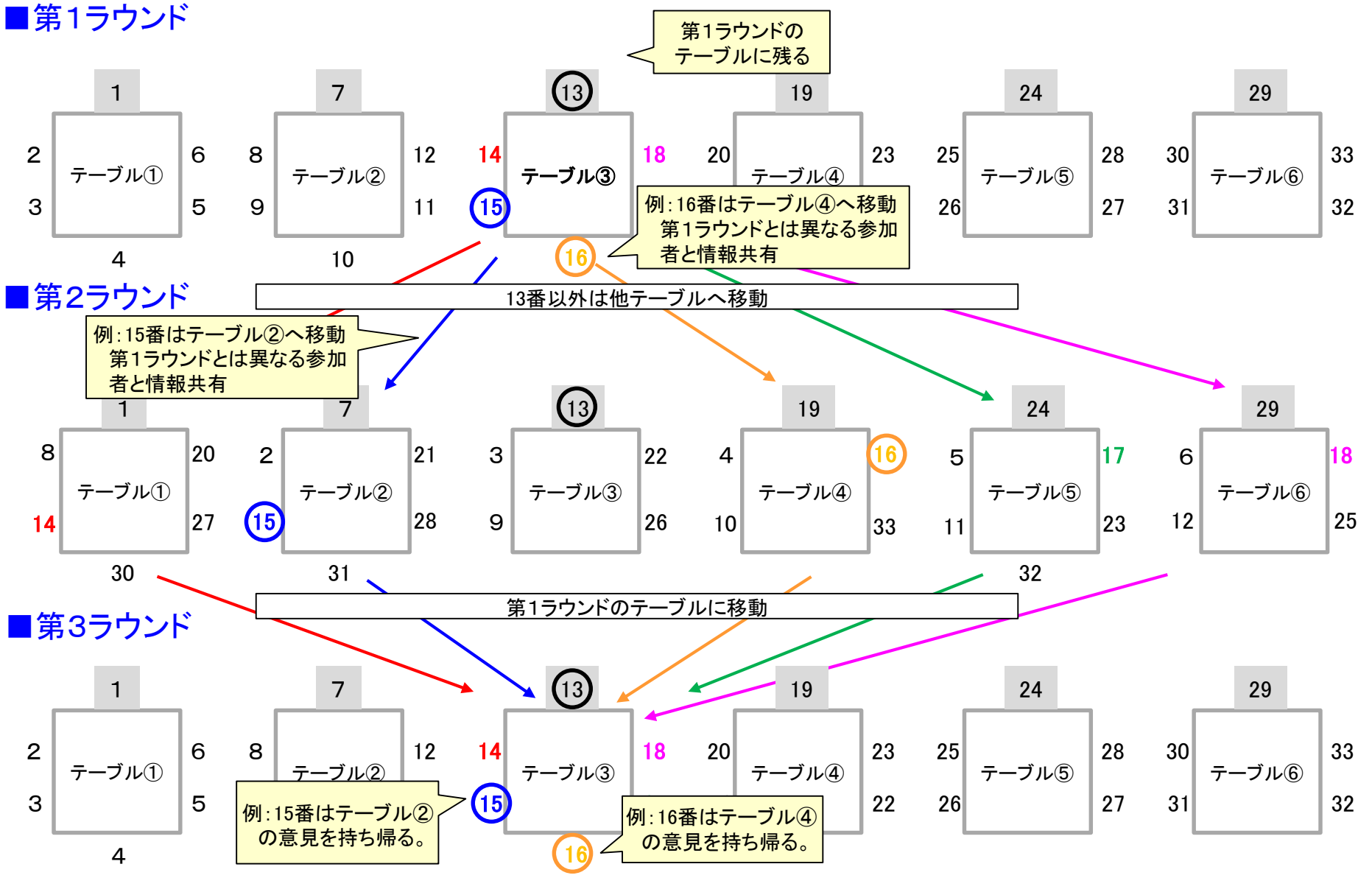
□テーブルチェンジは 2 回（計 3 ラウンドの意見交換）行う。情報共有が図れ、発表を行わず、意見交換に集中できる。

□各テーブル１名ずつ「情報共有係」を選ぶ。テーブルチェンジ時にもテーブルに残り、メンバーを送り出し、他のメンバーを受けいれる役割を担う。各ラウンド間で参加者は、最初のテーブルで出た意見、次のテーブルで 出た意見等を持ち寄り、情報と意見交換を行う。

→あたかも参加者全員と話をしたような効果が得られる

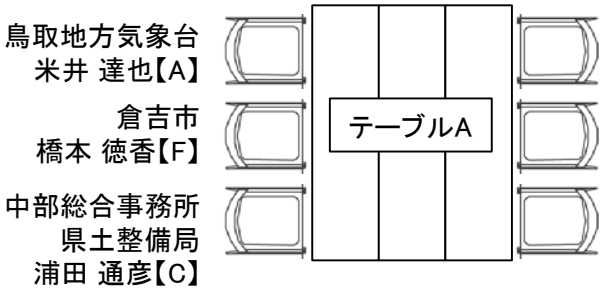
【ワールドカフェのイメージ】

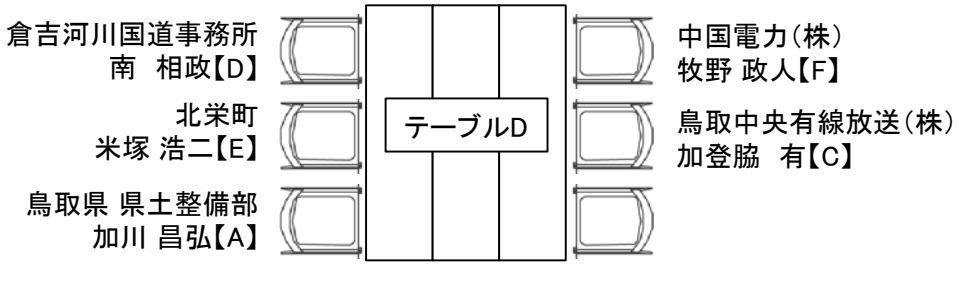
グループワークの流れ

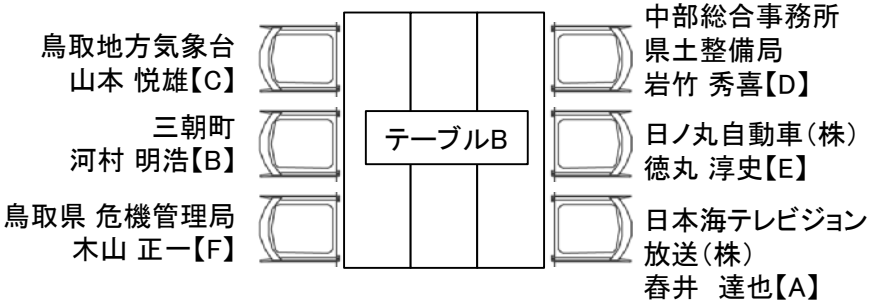


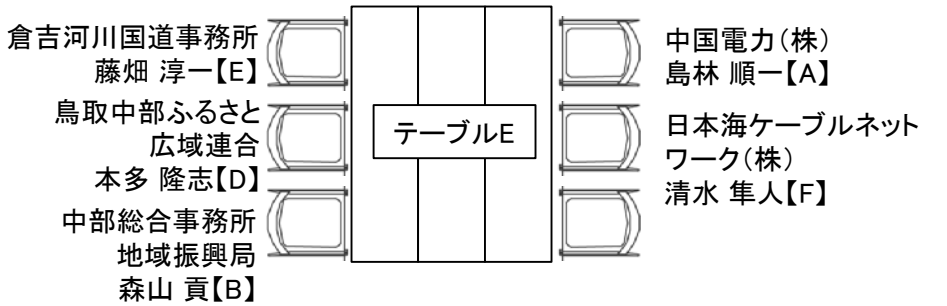
⇒全体で行動内容・情報や要望が共有される

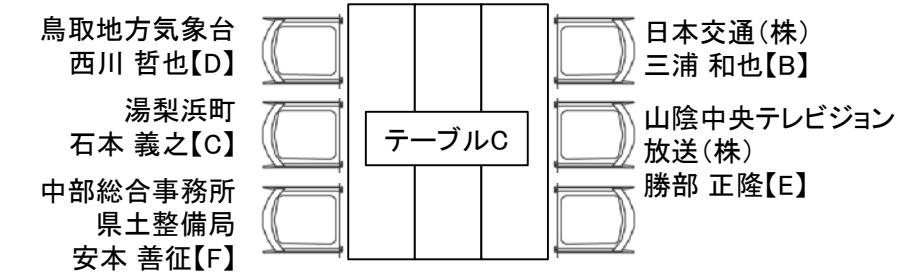
第１ラウンドの配席

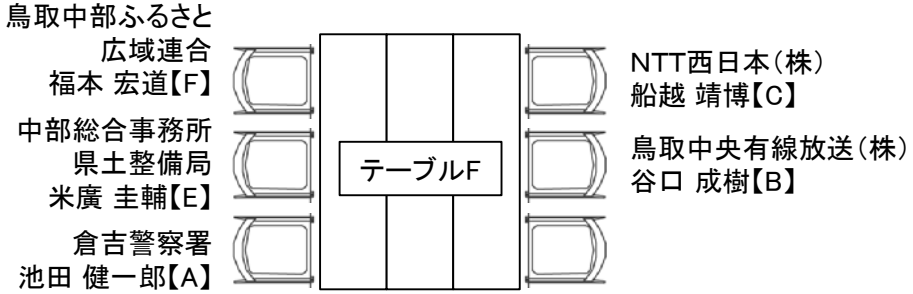












※担当者の後ろのアルファベット【A】は、**第2ラウンド**に移動していただくテーブル名です

第1ラウンド

10：30～10：50

①自己紹介：機関名、氏名 【約1分】

②各関係機関で、「水害時に実施している行動内容」と「水害時の対応などで困っていること」を付箋に記載 【約4分】

③各自の内容を説明しながら、図面に付箋を貼る 【2分程度/人：約12分】

④“共感できる「困っていること」や「他の機関が水害時に実施している行動内容に対して連携したいこと」”の付箋に●シールを貼る 【約1分】

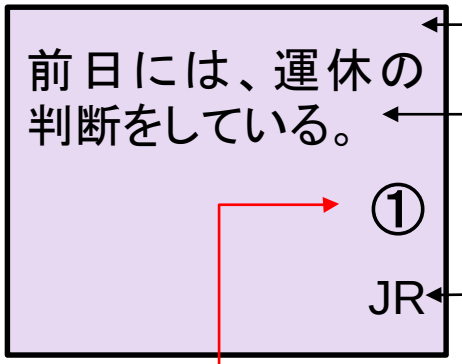
⑤テーブルを移動する。

グループワークの内容

①天神川の水害シナリオなどを踏まえ、水害時に実施している行動や困っていることについて付箋に記載する
　付箋は、行動の目的に応じて６色から選択する

分類	行動目的（第1階層）	付箋の色
（1）組織体制・防災情報の発表	組織体制 配備及び動員 情報収集伝達 災害広報・広聴	
（2）避難支援	避難支援 避難所開設・運営 要配慮者支援	
（3）水防活動、救助・救出	消防等活動（救助） 水防活動	
（4）道路・交通規制	交通確保対策	
（5）ライフライン対応	電力施設応急対策 電信電話施設等応急対策 水道施設応急対策 下水道施設応急対策	
（6）要望等		

【付箋の記載例】



①分類（第１階層）に合う付箋の色を選ぶ

②担当者が実施している行動内容を２行～３行でコンパクトに記載

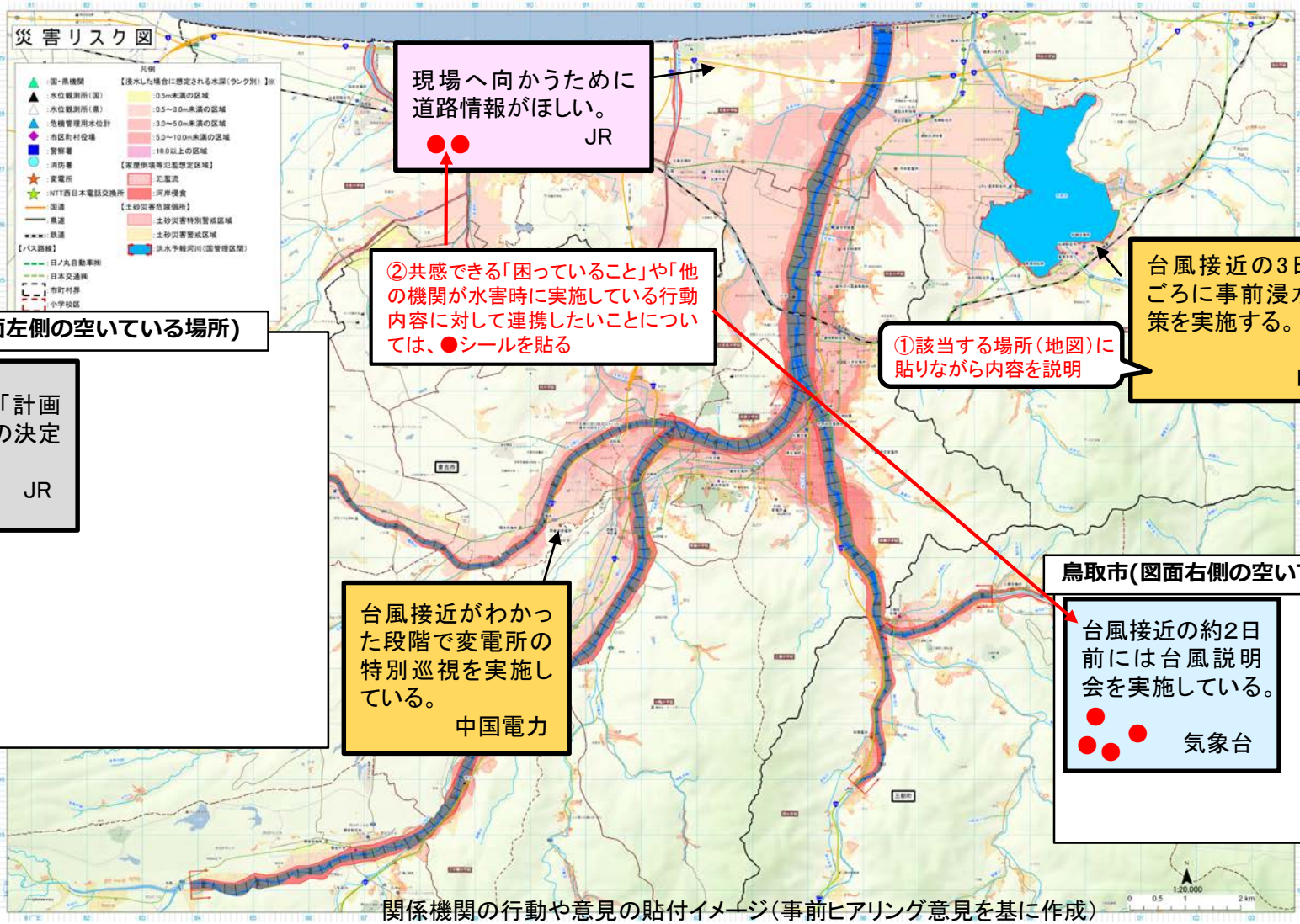
④機関名を記載（簡略化しても機関名が伝われば可）

③下表を参考に実施するタイミングを記載（わかる範囲で結構です）

	時間軸
①	台風接近の段階（3日前～1日前）
②	水位が上昇し、氾濫の危険性が高まった段階（当日）
③	堤防決壊などにより浸水被害が発生した段階

グループワークの内容
（現状の対応や要望等の貼付イメージ）

②付箋を該当する場所（地図）に貼りながら内容を説明する（だれが、どこで、いつ、どのようなことを実施しているかを共有）
③図面に貼られた付箋に対して、“共感できる「困っていること」や「他の機関が水害時に実施している行動内容に対して連携したいこと」”に●シールを貼る



関係機関の行動や意見の貼付イメージ（事前ヒアリング意見を基に作成）

第2ラウンド

10：50～11：05

①自己紹介：機関名、氏名 【約1分】

②各関係機関で、「水害時に実施している行動内容」と「水害時の対応などで困っていること」を付箋に記載 【約2分】 ※第1ラウンドと同作業

③各自の内容を説明しながら、図面に付箋を貼る 【2分程度/人：約10分】

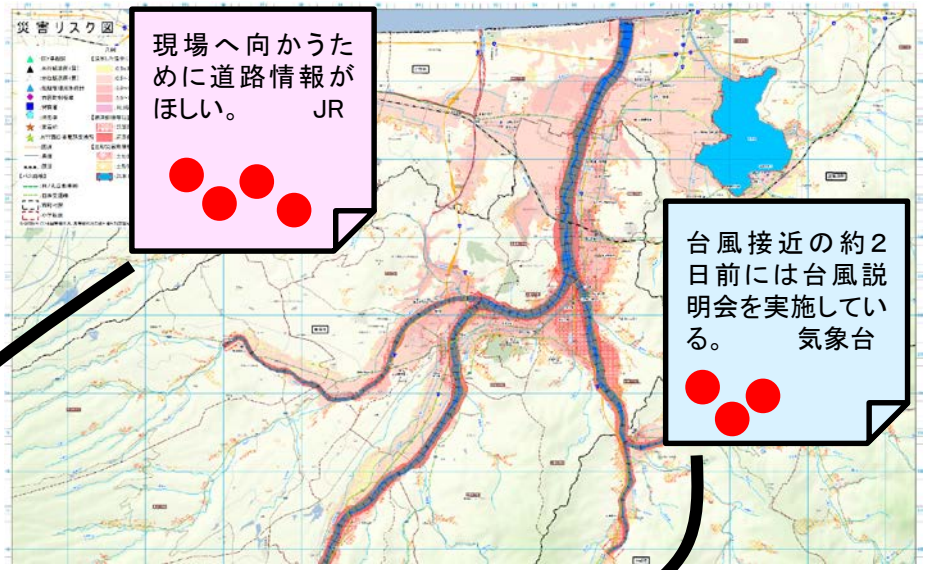
※第1ラウンドのテーブルに残った方は第1ラウンドの●シールの情報を紹介する

④“共感できる「困っていること」や「他の機関が水害時に実施している行動内容に対して連携したいこと」”の付箋に●シールを貼る 【約1分】

⑤第1ラウンドのテーブルへ持ち帰って共有したい付箋を書き写す 【約2分】

⑤第1ラウンドのテーブルへ持ち帰って共有したい付箋を書き写す

- ●シールが貼ってある“共感できる「困っていること」や「他の機関が水害時に実施している行動内容に対して連携したいこと」”の付箋から、第１ラウンドのテーブルで共有したい付箋を書き写す（白色の付箋を使用）
- 付箋は、“**白色**“を使用する
- 書き写した付箋に、自機関名を追記する



困っていること

現場へ向かうために道路情報がほしい。
JR
〇〇

白色
第１ラウンドのテーブルで共有したい付箋の内容
自機関名を追記

他の機関が水害時に実施している行動内容に対して連携したいこと

台風接近の約２日前には台風説明会を実施している。
気象台
〇〇

白色
第１ラウンドのテーブルで共有したい付箋の内容
自機関名を追記

テーブルを移動されない方へのお願い

本日は、情報共有係の役割をよろしくお願いいたします。

◆ 第2ラウンドでのお願い

①最初の2分間（別テーブルから移動してきた人が、各自意見を記載している間）
⇒新しくテーブルに来られた方に第1ラウンドの内容を紹介して頂きたいので、付箋のうち赤●シールが貼ってある付箋の内容を確認してください。

②「全体ファシリテーターが、紹介をお願いします。」と振りを入れますので、ご自身が実施している内容に加え、第1ラウンドの付箋のうちシールが貼ってある付箋を紹介してください。

③参加者が元のテーブルに戻るために、情報を書き写している間に、第2ラウンドで得た情報を、赤●シールが貼ってある付箋を確認しておいてください。

◆第3ラウンドでのお願い

①「全体全体ファシリテーターが、紹介をお願いします。 」と振りをいれますので、第2ラウンドの付箋のうちシールが貼ってある付箋を紹介してください。

第3ラウンド

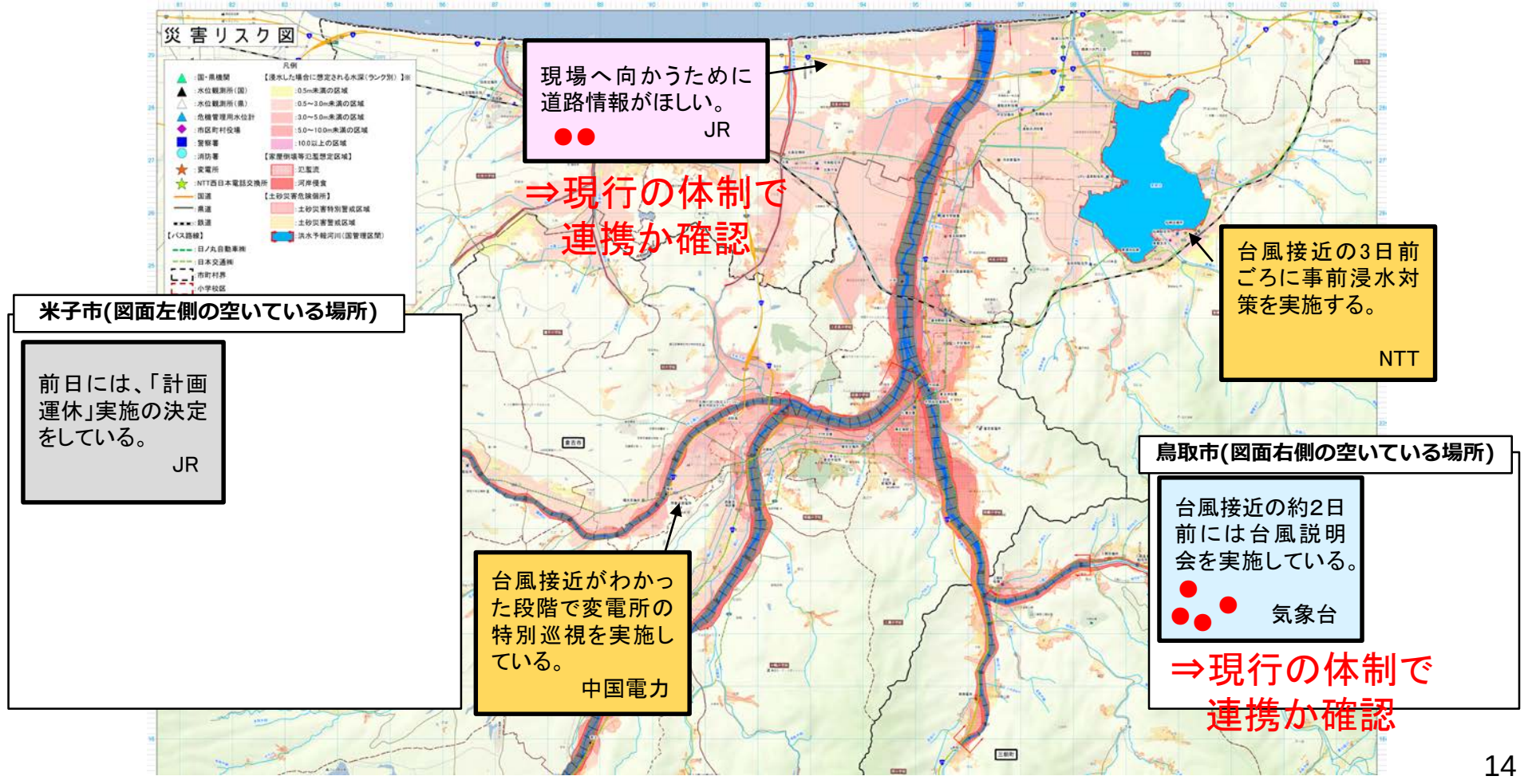
11：05～11：20

①各テーブルから持ち帰った情報を説明しながら、図面に付箋を貼る
【2分程度/人：計12分】

②“共感できる「困っていること」や「他の機関が水害時に実施している行動内容に対して連携したいこと」”の付箋に●シールを貼る 【約1分】

グループワーク成果の活用方法

■検討会終了後（事務局）
- 関係機関が「いつ、どこで、どのような対応をしているか」を共有できるように、各テーブルの意見をとりまとめ『ニュースレター』を作成
- 多くの●シールが貼られた共有したい情報や共感できる要望等については、多機関連携が望まれる項目のため、現行の体制で連携や解決可能か、事務局で個別に確認し、タイムラインへの反映を検討
- 事前確認でチェックして頂いた内容以外の新たに出た項目はタイムラインへ追加



事前ヒアリングでの現状の対応や困っていることに関する主な意見

【鳥取地方気象台】
- 各防災関係機関が対策をとるために、概ね台風接近の２日前に台風説明会を実施している。
- 必要であれば交通やライフライン機関等にも台風説明会の開催の案内を送ることも可能である。

【中国電力　鳥取電力所　変電課】
- 台風の接近がわかった段階で変電所の巡視を実施している。
- 変電所に異常が発生した場合には、現場へ向かうため道路情報の共有が重要である。

【中国電力　営業所】
- 営業所では、従来の対応に加え、今年から市町へのリエゾン派遣について強化している。
- 路上変圧器が浸水する場合は、変圧器周辺は停電する可能性がある。停電が発生した場合は、営業所から市町へ連絡する。
- 制御所では、鳥取県内の電力を一括で管理している（制御所）。

【NTT西日本】
- 電話交換所が浸水した場合、固定電話、光電話、インターネット、携帯キャリア（すべてではない）が使用できなくなるおそれがある。
- 台風接近の３日前頃には電話交換所（止水板が整備してある電話交換所）へ止水板を設置しに行く。

【JR西日本】
- 概ね１日前には翌日の運行（計画運休）を判断している。
- 夕方の学生の帰宅等、運休の影響があると想定される場合は、学校へ情報を伝えるために、県教育委員会に連絡している。
- 駅員の避難を検討しなければならないため、避難指示の情報は、地区ごと（合併前の旧市町村単位程度）に発令されると助かる。
- 電車が運行できなくなった際には、日本交通や日ノ丸自動車、地元の観光バスなどに代行依頼をすることになる。
- 仮に倉吉駅が大規模な浸水被害により、復旧が長期に及ぶと見込まれる場合は、京都方面、米子方面からいける駅まで電車を動かし、その間をバスで代行することなどが想定される（例：京都方面から泊駅、米子方面から由良駅まで電車を動かし、その間はバス代行）。
- 異常発生の際の現場確認やバスによる代行が必要となる際には、道路状況を把握したい（特にJR線路と並行する国道）。

【日ノ丸自動車】
- 運休を判断した際には、市町の防災無線で住民への周知依頼をしているが、それでも住民からバス会社へ連絡が来るため、この機会に報道機関と連携できることがあるとよい。